



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

熱海土石流から 1 か月

豪雨災害とその後



静岡県熱海市で起きた大規模な土石流の現場では、厳しい暑さの中依然として行方不明となっている 5 人の捜索が続いています。3 日発生から 1 か月となる中、立ち入り禁止区域の縮小に伴って帰宅が可能となった住宅も増えていて、被災者の生活再建をどのように支えていくかが当面の課題となっています。先月 3 日、熱海市伊豆山地区で発生した大規模な土石流ではこれまでに 22 人が亡くなり、依然として 5 人が行方不明となっていて、現場では 2 日も警察や消防がおよそ 200 人の態勢で捜索を続けます。

静岡地方気象台によりますと、熱海市伊豆山では 2 日午前 11 時半までの最高気温が 28.3 度となり、連日、厳しい暑さの中、土砂やがれきを撤去しながらの活動が続いています。

3 日で発生から 1 か月となる中、市は立ち入り禁止区域を縮小し、被害が大きかった地域の周辺では、帰宅が可能となった住宅が増えました。

こうした地域ではライフラインの復旧が進んでいるため避難先から戻る人も増えているということですが、壊れた住宅の修復など、被災者の生活再建をどのように支えていくかが当面の課題となっています。



被災から 26 日ぶりに国道が開通



猛暑の中で支援を続けた自衛隊

熱海土石流の発生から今日で 1 か月が経ちました。連日ニュースで報道された発生時の様子は観た人に大きなショックを与えました。しかしながら災害が起こってから時間が経つと、その災害を取り扱うメディアは次第に少なくなってきます。

自然災害による被害は被災時だけでなく被災後も人々に長期的な影響を与えます。中には復興のために十年以上もかかるものもあり、今もなお日本の各地で災害の爪痕と向き合っているたくさんの人がいます。

海外に住む私たちが直接被災地に支援へ赴くのは容易なことではありませんが、災害について自ら調べて知ることは誰でもできます。日本に住んでいないからこそ、みなさんには災害について多くの関心を持って欲しいと思っています。そしてその関心がいつか行動を起こすため種になれば本当にうれしく思います。

(北山)